PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

09-103413

(43) Date of publication of application: 22.04.1997

(51)Int.CI.

A61B 5/00 A61G 12/00

G06F 19/00

(21)Application number: 07-265187

(71)Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO

LTD

(22) Date of filing:

13.10.1995

(72)Inventor: SHIRAISHI TAKAKO

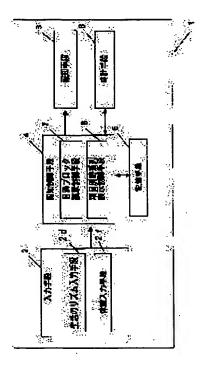
NISHII KAZUNARI KANAZAWA YASUYUKI

(54) HEALTH MANAGEMENT SUPPORTING DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To support health management for making an individual recognize the cause of the quality of a biological state by simultaneously reporting information relating to the rhythm of the daily life of the individual and the daily biological information of the individual.

SOLUTION: This device is provided with a rhythm-of-life input means 2d for inputting the information relating to the rhythm of the daily life of the individual, a body weight input means 2f for inputting body weight, a storage means 5 for storing the information from the rhythm-of-life input means 2d or the body weight input means 2f and a reporting means 3 for reporting the information from the rhythm-of-life input means 2d, the body weight input means 2f or the storage means 5. Thus, a user recognizes the correlation of the rhythm of his/her own daily life and the body weight and realizes health improvement, weight reduction and figure slimming by life improvement.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

15.10.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision

THIS PAGE BLANK (USPTO)

毎陽中9-103413

4 盐 华 噩 4 22 (19) 日本国格群庁 (JP)

(11)特許出頭公園每号

€

辍

特開平9-103413

(43)公開日 平成9年(1997)4月22日

(51) Int.CL.		中国国	一个位在一个	FI		技術教示館用
A61B	2/00			A 6 1 B	2/00	2
A 6 1 G 12/00	12/00		9052-4C	A 6 1 G	12/00	7
G06P	19/00			G06F	15/42	æ

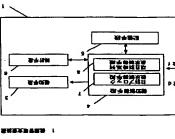
審査請求 未請求 請求項の数18 〇L (全 24 頁)

(21)出版路号	特属平7 -265187	(71)出版人 00005821	000005821	
			松下電器産業株式会社	
(22) 出知日	平成7年(1995)10月13日		大阪府門真市大字門真1006番地	
		(72) 発明者	白石 本子	
			大阪府門真市大学門真1006器炮 松下電器	松下偏肥
			商業株式会社内	
		(72) 発明者	四十 一成	
			大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器	松下電器
			医静体式会社内	
		(72) 発明者	金澤 領之	
			大阪府門其市大字門真1006番地 松下電器	松下無
			産業株式会社内	
		(74)代理人 弁理士	弁理士 億本 智之 (外1名)	

(54) [発明の名称] 健康管理支援技器

個人の日々の生体情報を同時に報知することにより、生 **体状態の良否の原因を個人に認識させる健康管理の支援** 【既題】 個人の日々の生活のリズムに関する情報と、 をすることである。

国入力手段2fまたは前記記由手段5からの情報を報知 する穀知年段3とを備えたものであり、利用者は自分の 【解決手段】 個人の日々の生活のリズムに関する情報 **る体重入力手段2f と、前配生活のリズム入力手段2d** または前配体重入力手段2~からの情報を配館する記憶 手段5と、前配生活のリズム入力手段2dまたは前配体 を入力する生活のリズム入力手段26と、体盘を入力す 生活のリズムと体質の相関を認識し、生活改善による、 雄鹿均道、咸虫、痩身を実現することができる。



(特許請求の範囲)

り、生体状態の良否の原因を個人に認識させる健康管理 「請求項1」個人の日々の生活のリズムに関する情報 と、個人の日々の生体情報を同時に観知することによ

り、体重増減の原因を個人に認識させる健康管理支援装 [時求項2] 個人の日々の生活のリズムに関する情報 と、個人の日々の体重情報を同時に報知することによ

[請求項3] 個人の日々の生活のリズムに関する情報を 入力手段と、前配生活のリズム入力手段または前配体重 入力手段からの情報を報知する報知手段とを備えた健康 入力する生活のリズム入力手段と、体重を入力する体重

IU か1項に記載の健康管理支援装置。

手段からの情報を蝦知する蝦知手段とを備えた健康管理 入力する生活のリズム入力手段と、体重を入力する体重 【請求項4】個人の日々の生活のリズムに関する情報を 入力手段からの情報を記憶する記憶手段と、前記生活の リズム入力手段または前配体重入力手段または前配配位 入力手段と、前記生活のリズム入力手段または前配体重

3

| 排水項5| 別定データを送信するデータ送信手段を伽 えた体重測定手段と、体盤入力手段は前記体重測定手段 からの体重データを受信する受信手段を備えた請求項3 または4記載の健康管理支援装置。

入力手段を備えた請求項3ないし6のいずれか1項に記 量、体温、基礎体温、血圧、心拍、ストレス度合い、血 **結値、尿铸値、尿たんぱく、睡眠保度、体脂肪率、身体** 寸法等の人体生理に関する測定値を入力する測定データ 請求項6】生活のリズム入力手段は、カロリー消費 載の健康管理支援装置

睡眠深度、体脂肪率、身体寸法等の人体生理に関する情 **報を測定し、測定データを送信するデータ送信手段を确** えた生理データ測定手段と、測定データ入力手段は前記 生理データ測定手段からの送信データを受信するデータ **心拍、ストレス度合い、血糖値、尿糖値、尿たんぱく、** [請求項で] カロリー消費量、体温、基礎体温、血圧、 受信手段を備えた請求項6載の健康管理支援装置

[請求項8] 生活のリズム入力手段または体重入力手段 または記憶手段からの複数項目の情報を日別のブロック 制御手段を備えた請求項3ないし7のいずれか1項に配 にして穀知手段にて穀知させるための日別プロック穀知 数の健康管理支援装置。

または記憶手段からの情報を各項目毎に時系列で報知手 えた請求項4ないし8のいずれか1項に配載の健康管理 【請求項9】生活のリズム入力手段または体重入力手段 段にて蝦知させるための項目別時系列蝦知制御手段を儲

Ž. 段からの入力情報に基づき利用者の生理的パイオリズム [請求項10] 生活のリズム入力手段または体重入力手

を判定し、優せるのに最適な時期を推測し報知手段にて 報知するための運身タイミング報知手段を備えた請求項 4 たいし9 のいずれか1項に記載の健康管理支援装置

リズムの良否を判定し報知手段にて報知するための生活 **ーンについてのデータを記憶し、生活のリズム入力年段** または体質入力手段からの情報と前配配徴手段に配憶さ れた理想的な生活のリズムパターンとの比較から生活の のリズム判定手段を備えた請求項3ないし10のいずれ 【請求項11】配售手段は理想的な生活のリズムのパタ

ーンについてのデータを記憶し、生活のリズム入力手段 れた理想的な生活のリズムのパターンとの比較から生活 のリズム入力年段または体盤入力年段からの情報に基力 き利用者の生活のリズムを総合的に診断し、窒ましい生 括のリズムについての助宮を殺知手段にて殺知するため の助百年段を備えた請求項3ないし11のいずれか1項 または体盤入力手段からの情報と前記記憶手段に記憶さ 【請求項12】 配億年段は理想的な生活のリズムのパタ に記載の健康管理支援装置。

の運動法を静止画、動画、文字、音声等により報知手段 【請求項13】健康増進、ストレス解消、便身等のため に報知するための運動法報知手段を備えた請求項3ない [請求項14] 生活のリズム入力年段はスポーツクラ し12のいずれか1項に記載の健康管理支援装置。

ブ、エステティックサロン、フィットネスクラブ、椀院 等の美容便身施設または医療施設への通院日を入力する 通院配録入力手段を備えた請求項4ないし13のいずれ か1項に記載の健康管理支援装置。

た請求項3ないし14のいずれか1項に記載の健康管理 J、エステティックサロン、フィットネスクラブ、病院 等の英容優身施設または医療機関通院時の施格、運動の 実施内容、治療、投薬、指導内容等を入力する施術内容 [請求項16] 特定個人を確別する個人認証手段を設け 入力手段を備えた請求項14記載の健康管理支援装置。 [静水項15] 生活のリズム入力手段はスポーツクラ 支援装置。 3

とからなるペンタッチ入力手段を備えた請求項3ないし 【請求項17】入力手段は、入力操作指示表示部とペン 16のいずれか1項に記載の健康管理支援装置。

ン、フィットネスクラブ、病院等の美容便身施設または 医療機関に設置されている情報処理装置と、健康管理支 投装置は情報の授受が可能な送受信部を介して結合され [請求項18] スポーツクラブ、エステティックサロ ることを特徴とした健康管理支援システム。 ₹

[発明の詳細な説明]

[発明の属する技術分野] 本発明は食生活を中心とする 生活改善を支援し、健康増進、英容、優身、成量等を行 うための健康管理支援装置に関するものである。

[0002]

8

?

)

る生活の改善を行い健康を維持していくことが大切であ 成人病予防のためにも、健康な内から食生活を中心とす 病を進行させていることが指摘されており、中年以降の 世代の間違った生活習慣や食生活の蓄積が潜在的に成人 の改善によって、予防や治療ができるものである。若い その中には特定の食品ばかり食べさせたり、極端な食事 家庭病とも自われ、休養、運動、栄養といった日常生活 **しけたりといったものもめる。 しかし、成人統令節経は** 制限等の間違った食事療法や、非常に高価な薬品を売り 性をターゲットとしたビジネスが盛んである。しかし、 イエットへの関心も高く、美しく痩せることを目ざす女 因として肥満が問題になっている。また、若い女性のタ 【従来の技術】近年、成人病の増加が顕著で特にその原

養の過不足を判定し、好ましい栄養摂取内容や運動内容 動量の指示をディスプレイ表示し、次に、摂取した食品 を指示するものである。 入力し、個人の具体的な摂取内容、行動内容に応じた栄 内容のデータ、睡眠時間、運動量等個人の行動データを た、特開平2-814790号公報は個人の取った食事 情報から摂取カロリーを計算し接示するものであり、ま 度を計算し、一日当たりの摂取すべき摂取カロリーと選 女別、年齢、体重、身長、摂取した食料品の種類、量等 を入力すると、データがCPUに送られ、その人の肥満 として、特開昭62-257567号公報は各個人の男 ることは不可能である。このような課題を解決するもの による健康管理で、その個人にとって適切な指示を与え と運動については単に個人の身体的、医学的な情報のみ よって異なり、肥満や成人病の予防に大きく関わる食事 容は毎日異なる。また睡眠、運動などの行動内容も日に は個人で大きく異なる上、同一個人でも摂取する食事内 60号公報)がある。しかし、個人の摂取する栄養状態 て食事や運動の処方をするもの(特開昭61-2117 として、個人の身体的、医学的特徴から標準値と比較し 【0003】そこで、個人の健康を家庭で管理する装置

にも関わらず、メニューから導きだすカロリーデータは メニューの入力作弊が利用者に与える負荷は多大である 摂取エネルギー算出のための、毎日食べた全ての正確な た公報においては次のような課題を有している。第1に あくまでも標準値であり、個人が食べた正確なカロリー 【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記し

で異なる。体重の増減は単にカロリーの出入りだけでな は基礎代謝量等の個人の体質、バイオリズムや生活習慣 値とすることに問題がある。つまり、窒ましい食事内容 個人の身体的、生体的特徴から導き出した標準値を理想 した指示とは言えない。 波量、復身を目的とした場合、 値と照らし合わせて指示を与えるのでは真に個人に適応 【0005】第2に、個人の毎日の行動データと、標準

> 全体がお互いに影響しあっている。 便状况、女性の場合は生理周期等の日々の生活のリズム く、ストレス度合い、睡眠状態、食事の摂取の仕方、排

し、実行し、威量、健康増進等の成果を確認していくこ とが長続きするために大切であると考える。 受け身的になり、長続きしない。自分の生活における体 が多い。また、利用者は常に出された指示に従うという のライフスタイルに適応していなく、実行できないこと 重増減のメカニズムと実現可能な生活改善法を見つけだ 容を提示する場合、提示された食事や運動の内容が個人 【0006】第3に、自動的に装置が判断して、指導内

提供することを目的とする。 認識させるダイエット管理や健康管理を支援する装置を とにより、体重の増減や生体状態の良否の原因を個人に 体重情報や血糖値情報等の生体情報を同時に報知するこ 人の日々の生活のリズムに関する情報と、個人の日々の 【0007】本発明は、上記課題を解決するもので、個

成するために下記の構成とした。 【課題を解決するための手段】本発明は上記の目的を違

により性体状態の良否の原因を個人に認識させるという る情報と、個人の日々の性体情報を同時に報知すること 【0009】すなわち、個人の日々の生活リズムに関す

0010

とにより、生体状態の良否の原因を個人に認識させるも ズムに関する情報と生体情報を同時に個人に報知するこ 【発明の実施の形態】本発明は、個人の日々の生活のリ

管理するものである。 より、体重増減の原因を個人に認識させるダイエットを 情報と、個人の日々の体重情報を同時に報知することに 【0011】また、個人の日々の生活のリズムに関する 【0012】また、個人の日々の生活のリズムに関する

配体重入力手段からの情報を報知する報知手段とを備え たものである。 る体重入力手段と、前記生活のリズム入力手段または前 情報を入力する生活のリズム入力手段と、体重を入力す

情報を入力する生活のリズム入力手段と、体重を入力す 記記憶手段からの情報を報知する報知手段とを備えたも 生活のリズム入力手段または前記体重入力手段または前 記体重入力手段からの情報を記憶する記憶手段と、前記 る体重入力手段と、前記生活のリズム入力手段または前 【0013】また、個人の日々の生活のリズムに関する

たものである。 重測定手段からの体重データを受信する受信手段を備え 段を備えた体重測定手段を備え、体重入力手段は前記体 【0014】また、測定データを送信するデータ送信年

【0015】また、生活のリズム入力手段は、カロリー

定データ入力手段を備えたものである。 率、身体寸法等の生理生体に関する測定値を入力する測 い、血糖値、尿糖値、尿たんぱく、睡眠深度、体脂肪 消費量、体温、基礎体温、血圧、心拍、ストレス度合

受信手段を備えたものである。 は前記生理データ測定手段からの送信データを受信する を測定する生理データ測定手段と、測定データ入力手段 既深度、体脂肪率、身体寸法等の生理生体に関する情報 血圧、心拍、ストレス度合い、血糖値、尿たんぱく、圧 【0016】また、カロリー消費量、体温、基礎体温、

の日別ブロック報知制御手段を備えたものである。 **ータを日別のブロックにして報知手段に表示させるため** 力手段または記憶手段からの情報に基づき複数項目のテ 【0017】また、生活のリズム入力手段または体重入

穀知手段に表示させるための項目別時系列表示制御手段 を備えたものである。 力手段または記憶手段からの情報を各項目毎に時系列で 【0018】また、生活のリズム入力手段または体重入

に報知するための痩身タイミング報知手段を備えたもの 力手段からの入力情報に基づき利用者の生理的パイオリ ズムを判定し、痩せるのに最適な時期を推測し報知手段 【0019】また、生活のリズム入力手段または体重入

のリズム判定手段をものである。 リズムの良否を判定し報知手段にて報知するための生活 れた理道的な生活のリズムパターンとの比較から生活の 手段または体質入力手段からの情報と記憶手段に記憶さ パターンについてのデータを記憶し、生活のリズム入力 【0020】また、紀億手段は理想的な生活のリズムの

吉手段を備えたものである。 用者の生活のリズムを総合的に診断し、望ましい生活の リズムについての助菌を報知手段にて報知するための助 ズム入力手段または体重入力手段からの情報に基づき利 た理道的な生活のリズムパターンとの比較から生活のリ 段または体重入力手段からの情報と記憶手段に記憶され ターンについてのデータを記憶し、生活のリズム入力手 【0021】また、記憶手段は理想的な生活のリズムパ

ための運動法を静止画、動画、文字、音声等により報知 手段に報知するための運動法報知手段を備えたものであ 【0022】また、健康増進、ストレス解消、痩身等の

院等の美容痩身施設または医療施設への通院日を入力す る通院記録入力手段を備えたものである。 ラブ、エステティックサロン、フィットネスクラブ、椋 【0023】また、生活のリズム入力手段はスポーツク

容入力手段を備えたものである。 の実施内容、治療、投薬、指導内容等を入力する施術内 院等の美容痩身施設または医療機関通院時の施術、運動 ラブ、エステティックサロン、フィットネスクラブ、椋 【0024】また、生活のリズム入力年段はスポーツク

指示表示的とペンとからなるペンタッチ入力手段を備え 人認証手段を設けたものである。入力手段は、入力操作 【0025】また、特定個人にのみ情報を報知させる個

される構成としている。 支援装置とは情報の授受が可能な送受信部を介して結合 は医療機関に設置されている情報処理装置と、健康管理 ロン、フィットネスクラン、病院毎の英谷痩み値段また 【0026】また、スポーツクラブ、エステティックサ

より、生体状態の良否の原因を個人に自己認識させるこ に関する情報と生体情報を同時に個人に報知することに 作用が得られる。すなわち、個人の日々の生活のリズム 【0027】本発明は、上記した構成によって、下記の

態に即した生活改善に役立つダイエット法の実践が可能 情報と、個人の日々の体重情報を同時に報知することに より、体重増減の原因を個人に認識させ、個人の生活実 【0028】また、個人の日々の生活のリズムに関する

日々の生活のリズムを報知することにより個人に認識さ 血糖値の増減が生じるのか等の生体状態の良否の原因を や血糖値情報等の生体に関する情報を同時に報知手段に の生活のリズムに関する情報と、個人の日々の血圧情報 せることが可能となる。 報知することにより、何故血圧の増減が生じるのか何故 【0029】また、入力手段より入力された個人の日々

減が生じるのかの原因を日々の生活のリズムを報知する を同時に報知手段に報知することにより、何故体重の増 の生活のリズムに関する情報と、個人の日々の体重情報 ことにより個人に認識させることが可能となる。 【0030】また、入力手段より入力された個人の日々

信し、入力することができる。 をデータ送信手段を通じて送信し、体重入力手段はデー 夕送信手段からの体重情報をデータ受信手段を通じて受 る生活のリズム情報と、体重入力手段からの体重情報を 報知し、さらに記憶手段に記憶蓄積することができる。 分、食事の栄養バランス、食事時間、入俗等の状況であ 手段からの個人の日々の睡眠、便通、月経、運動、気 【0032】また、体重測定手段は測定した体重データ 【0031】具体的には、報知爭段は生活のリズム入力

寸法等の生理生体に関する拠定値を入力可能とし、入力 特値、尿特値、尿たんぱく、睡眠深度、体脂肪率、身体 情報を報知手段により報知することができる。 曲、体温、基礎体温、血圧、心拍、 ストレス既合い、 血 【0033】また、測定データ入力年段はカロリー消費

送信手段を通じて測定したデータを送信し、測定データ 量、体温、基礎体温、血圧、心拍、ストレス度合い、血 寸法等の生理生体に関する情報を測定可能とし、ゲータ 特値、尿特値、尿たんぱく、睡眠深度、体脂肪率、身体 【0034】また、生理データ測定手段はカロリー消費

£

特別平9-103413

۴

特別49-103413

)

/ 入力年段はゲーク殳信年段を通じてデータ送信年段から の情報を受信し、入力することができる。

[0035]また、日別プロック報知制御手段は、生活のリズム入力手段または位置入力手段または存置入力手段または記事段からの情報に基づき複数項目の入力データを日別のプロックにして報知手段により表示することができる。[0036]また、項目別時系列表示制御手段は生活の

[0036]また、項目別時系列表示制御年段は生活の リズム入力年段または体重入力手段または記憶年段から の情報を各項目別に時系列で総知年段に表示することが [0037]また、優身タイミング総知年段は生活のリズム入力年段またはお園入力年段または記憶事段からの情報に基づき利用者の生理的パイオリズムを判定し、優性さのに最適な時期を推測し線知年段により総知することができる。

【0038】また、生活のリズム判定手段は生活のリズム入力手段または体盤入力手段または認時手段からの情報に基づき生活のリズムの長否を判定し、独加手段により概如することができる。

【のの39】また、助官手段は生活のリズム入力手段または体値入力手段または配置を受けたの間傾に基づき利用者の生活のリズムを総合的に移断し、図ましい生活のリズムについての別官を報知手段に報知することができ

[0040]また、運動活動が手段は縁痛始端、ストレス解消、便分等のための運動社を静止面、動画、文字、音声等により報知手段により報知することができる。[0041]また、通探配録入力手段はスポーツクラブ、エステティックサロン、フィットネスクラブ、結形等の対容複分施設または医療施設への通常日を入力することができる。

[0042]また、施術内容入力手段スポーツクラブ、エステティックサロン、フィットネスクラブ、格院等のエステティックサロン、フィットネスクラブ、格院等の英名優女施設またけ医療機関通際時の始後、運動の実施内容、地震、投票、投票、指導内容等を入力することができ

(10043]また、個人認証手段は特定個人にのみ情報を報知させることができる。また、入力手段は、入力機作指示数示部とペンとからなり、操作が容易なペンタッチ入力ができる。

[0044]また、スポーツクラブ、エステティックサロン、フィントネスクラブ、病院等の英容優分施設またけ医療機関の情報機器と、健康管理支援装置は伝送年段を介して結合されているので、健康管理支援装置に管理配営された個人の生活のリズムや体重等の生体情報を美容優分施数または医療機関の情報機器に吸い上げることがやきるので、一元管理ができることになる。

ができるので、一元管理ができることになる。 【0045】以下、本路明の一英施例を図1から図25 全参照しながら説明する。

(実施例1) 図1~図7において1は健康管理支援装置 NI

で以下より構成する。2は健康管理装置1に情報を入力する入力手段、3は利用者に入力手段2の情報を報却するためので報知手段、4は報知年段3に入力手段2からの情報に基づき報知手段に報知する内容を制御する報知問題手段、5は入力手段2と報知制御事段4の情報を配信する配信手段、6は時期をかりたしカレンダーを生成する時計手段である。

10046]本実施例では、入力手段2はカレンダー、食事日配、生活のリズム、身体サイズ、体質、チェックの各項目を選択する項目選択ボタン2aと、前記項目選択ボタン2aと、前記項目選択ボタン2aと、前記項目選択ボタン2aと、前記項目選択ボタン2aと、前記項目選択ボタン2aと、前記項目選択スカ手段2c、生活のリズム入力手段2b、食事日配入力手段2c、生活のリズム入力手段2d、サイズ入力手段2からの情報で報知手段3c側がするものであり、日別ブロック報知問句手段3bに関係でロック表示側割するものです。、項目別等系列報知制的手段の1実施例として、入力情報を各項目のことに時系列で表示制御するための項目別時系列表示制 3 ことに時系列で表示制御するとの項目別時系列表示制

は、如々の時刻を計時して、報知制御年段4にその情報を出力している。本典結例では生活のリズムの項目として、難眠時間、気分体面、体操の実施、便通、生理(女性の语台)としたが、これに拘束されることなく万歩計の歩数、入谷時間、外食、睡眠の満足度、食欲、加の状態等の体間や体度等に影響し、利用者が自分の1日の生格を意味する。また、気力手段2には、ペンョと感圧パネル9して構成されたペンタッチ入力手段9を用い、感圧パネル9しは報知手段3の活起ディスプレイに重ねられており、ペン9っで押圧する顧別に対応してデータの入力ができるように構成されている。報知年段3はCRT、マンビ等の液晶ディスプレイに重ねられており、ペン9っで押圧する顧別に対応してデータの入力ができるように構成されている。報知年段3はCRT、テレビ等の液晶ディスプレイに重ねられており、ペン9っで押圧する部別に対応してデータの入力ができるように構成されている。報知年段3はCRT、テレビ等の液晶ディスプレイに重ねられており、ペン9っで押圧する部別に対応してデータの入力ができるように構成されている。報知年段3はCRT、音声により報知するためのスピーカーを設けてもよく、音声により報知するためのスピーカーを設けてもよ

【0047】 次に動作について説明する。まず、電源を入れると図3のようにカレンダーが表示される。今日の日付けの箇所は報知年段3に反応表示されている。仮に4月1日当日のデータを入力する場合を例にとる。項に選択オクン2。の中から食事日配をクッケして設計する。その情報は積や回転の名乗者日配をクッケして設計する。その情報は積や回転等段4に落ちれ、積が回節手段4位図4のように食事日配が入力できる画面表示を生成すべく積知手段3を制御する。これで食事日配入力モードとなり食事日配入力手段2。を介して入力することができるようになる。食事日配の入り画面は複数の食品群を表示しており、1日に全ての食品群の食品を食べるとパランスのよい食事であるように分類されている。1日の食事の内容を思い出して各食品群の食品を食べるとパランスのよい食事であるように分類されている。1日の食事の内容を思い出して各食品群の食品を食べるとパランスのよい食事であるように分類されている。1日の食事の内容を思い出して各食品群の食品を食べるとパランスのよい食事であるように分類されている。1日の食事の内容を思い出して各食品群の食品を食べると

よい食生活につながる。食事の回教や間食の有無につい なる。入力が完了し、登録ボタン10をタッチすると入 ための食事日記を作成できる。また、各食品群の食品摂 事の良否が一目で認識できる。×のついた食品群の食品 を次の日に食べるようすることにより、栄養パランスの てもあてはまるものの前のチェック欄をペンタョでタッ チレて入力する。他に、食事摂取の時間符や食事にかけ た時間も入力するようにすれば、より詳細な食事日配に カデータは蝦

独制御手段4に送られる。これらの蝦

知制 脚手段4に送られた情報は、時計手段6が生成する日付 9aでタッチするとOと×が交互に投示される。食べた う。従来のような食べたメニューを全て入力するといっ た手間が不要で、簡単な作数で栄養パランスを判断する 数の有無がO×で一覧表示されるので、日々の自分の食 **らかをペンセチェックしていく。各食品群の枠内をペン** 掛合はO、食べなかった場合は×を表示させ入力を行 情報とともに配憶手段5に配憶される。

力が終了したら、登録ポタン10をタッチすると生活の の中から生活のリズムをタッチして選択すると蝦蛄制御 入力を行う。このように1日の生活のリズムを単純な作 年段4は図5のような生活のリズム入力画面を生成し製 知手段3に表示させる。これで生活のリズム入力モード **薬で簡単に入力を行うことができる。すべての項目の入** リズム入力手段2dは入力されたデータを報知制御手段 4に送る。蝦加制御手段4は配箇手段5に、日付情報と [0048] 次に日々の生活のリズムに関する情報を入 カする動作について述べる。まず、項目選択ボタン2ª となり生活のリズム入力手段2dを介して入力すること 前日の就寝時刻と当日の起床時刻をペン7mでタッチし **て睡眠時間を入力する。その他の項目についても1日を** ふりかえって、あてはまるものをペンタョでタッチして ができるようになる。まず、時刻表示グラフを用いて、 ともにこれらの情報を記憶させる。

梅倒では、 観頭部に ひい 大の説明は省略し ているが、 鬼

き、1週間の体重の変化をグラフ表示させる。所定期間 ンキーを用いてもよく、入力方法は本発明を拘束するも 脚手段 8 は配億手段 5 に配修署積された体重情報に基づ が表示されているので、利用者はプラスマイナスの表示 る効果がある。入力が終了したら、登録ボタン10を押 項目選択ボタン2gの中から体置を選択すると、銀知制 御手段4は図6のように頼知手段3に体血入力の画面を 数示させる。これで体重入力モードとなり体重入力手段 2 fを介して入力することになる。項目別時系列接示制 を選択し、2週間や1ヵ月等のように長期的体重グラフ を表示させることもできる。 体重入力部には前日の体置 すと体重入力手段2 f は入力されたデータを報知制御手 役4に送る。蝦知制御手段4は、これらの体重情報を日 付情報とともに配箇手段5に配엽する。体重の入力はテ これにより、利用者に前日からの体重の増成を怠騰付け 10049] 次に、体型の入力動作について説明する。 を用いて数字の変更を行い、当日の体盤の入力を行う。

のではない。また、韓地制的手段4は、食事日配入力年段2。今生活のリメム入力手段24によって入力された 森岳に基づき栄養パランス等を解析し食事について〇、 人、xの3段階で評価やし、さらに就程及び経床時間デ 一少に基づき職際時間を算出し、それぞれのデータを日 付債額ととらに配信手段5に配信する。

し、記憶手段5はROM(読みだし専用メモリ)とSR ッチすると、図7に示すように、日別ブロック投示制御 手段7と項目別時系列数示制御手段8により、利用者の 1週間の生活のリズム全般が一目でわかるように生活の リズム一覧11が蝦知手段3に蝦知される。日別ブロッ ク表示制御手段7は、記憶手段5に蓄積された情報を観 日付けのデータを同一億にプロック表示させる (図7の 生活のリズム一覧11の縦列)。 さらに、項目別時系列 項目の入力情報を時系列で数示させる(図7の生活のリ ズム一覧11の植列)。本東栢倒では、項目別時系列間 御手段8は体重の増減が視覚的、直感的にわかるように グラフ表示させる。体質を秘密にしたい時には減量を初 めた時点や目標体盤などの基準を設定し、基準体盤との 相対値で表現してもよい。本契施例で用いた做知制物手 段4、日別プロック表示制御手段7、項目別時系列表示 AM (筋み巻き可能メモリ)を用いて構成したが、これ らの構成は本発明を拘束するものではない。また、本央 [0050] そして、1日の生活のリズムおよび体盤の 入力が終了すると、項目選択ボタン2aのチェックをタ みだし、日毎の生活のリズムの状況がわかるように同一 数示制御手段8は各項目別の時系列でわかるように関ー 短卸手段8は16アントマイクロプロセッサーで権权

お式でも可能であり、健療管理支援装置1を携帯型にできることはいうまでもない。 (0051]本契施例では、間食摂取が有りの組合はその日の間食の間に解のイラストをピクト表示させ、利用者に対して間食を控えるように警告をする効果があようにした。なお、体質と合生活のリズムや食事の対応について長期的な傾向を見たい場合は、各項目を選択し、2週間、1ヵ月等の所定期間を投示させるような構成にし、どの生活項目がより体質に影響しているかがわかりやすくなる。さらに、1日の摂取した食事の栄養パランスを食事目配入力手段2cより入力された情報をもとに類知制的手段4が解析する構成をとったが、生活のリズム入力手段2dより食事目配を入力しても同様の作用であることは云うまでもない。

10052]以上のように本実施例によれば、食生活を含めた生活のリズムの各項目と体重の均減を一覧数示するので、健康に不可欠な食事と運動と体養に関する生活 実施を一目で認識することができる。また、どのような生活のリズムにおいて体重の増減が起こるのかを自ら認 離することができ、自分のライフスタイルにおける減量 いこつをつかむことができる。減量のために多くの方法

9

Ţ

法はないと言えるが、本実施例の構成により簡便に行え で、とんな体質にも合い、誰でも容易に実行できる威量 が提唱され、個人のライフスタイルや体質は千差万別 ることにより、自らの生活における体重増減や体調の良 ることができる。また、毎日の生活や体調をチェックす とにより、健康管理や減量を行うことができる。また、 否に関わるメカニズムを発見し、生活を改善していくこ り、体重や生活のリズムを時系列表示で適時利用者に報 痩少、咳毒、健康増進等は長期的な取り組みが必要であ とができ、生活改善の取り組みを持続させることができ 知するので、生活改善等の実践の効果を自ら確認するこ

力手段2 [は体重測定手段13からの送信データを受信 送信手段12を備えた体重測定手段13を備え、体重入 するデータ受信手段14を設けている点が実施例1とは [0053] (実施例2) 図8、図9において、データ 送られる。体重入力手段2 [は送られた体重データを、 支援装置1の体重入力手段2{のデータ受信手段14に 異なる。体重データはデータ法信手段12によって健康 億手段5に記憶蓄積する。このような構成にすることに の時計手段6の日付け情報と対応付けて体重データを記 報知制御手段4に送り、報知制御手段4は、体査側定時 より、測定体重の入力が簡単に行えるようになり、非常

に使い勝手のよい健康管理支援装置となる。 段 1 3 を健康管理支援装置 1 と別の独立した構成にし、 行えるので、より便利である。 能な構成にしているので、離れていてもデータの入力が データ送信手段12、データ受信手段14を無線通信可 【0054】 (実施例3) 図10において、体盤測定手

力作業が軽減され、体重測定値を忘れる心配もなく、正 歩計計測値、体温、血圧、心拍、血糖値、尿糖値、体脂 確かつ確実に入力を行うことができる。 防卓等の生体情報の測定データを入力する測定データ入 【0055】以上のように本実施例によれば、体重の入 [0056] (実施例4) 図11~図13において、万 3

力手段15を備えている点が実施例とは異なる。 の測定データをタッチすると、 穀知制御手段 4 は穀知手 を例にとって説明する。まず、項目選択ボタン2aの中 項目として、血圧と万歩計の測定データを入力する場合 段3に図12に示すように、測定データの入力画面を表 [0057] 次に動作について説明する。 捌定データの 示させる。これで、生理測定データ入力モードとなり、 測定データ入力手段15を介して入力できることにな 面を報知手段3に表示させ、報知制御手段4は過去の入 ン9aでタッチすると、 殺知制御手段4は血圧の入力画 る。血圧を入力する場合は、入力項目の中から血圧をべ カデータを記憶手段 5 から呼び出してグラフ表示させ 様であるので、ここでは説明を省略する。血圧の他に、 る。 測定値の入力動作は実施例1における体重入力と同 万歩計のデータについても同様に入力を行う。入力が完 ž

夕を報知制御手段4に出力し、日付情報とともに記憶手 了すると登録ボタン10をタッチすると入力されたデー 生活のリズムと血圧とを対応させて一覧で表示する。 より、図13に示す生活のリズム一覧表示11として、 段5に記憶する。入力されたデータは報知制御手段4に 値、尿たんぱく等個人の要管理項目に対応させれば、糖 やすいく、各生活行為や体重と測定データとの相関を知 力した血圧もグラフ表示するので、血圧の変化がわかり 尿病、高胎血症、肥満、じん臓病等の治療や予防を行う ることができる。なお、測定データ入力の項目を血糖 【0058】以上のように本実施例によれば、数字で入 病気治療及び予防を支援することができる。 人の健康管理を容易にし、生活改善、減量痩身を通じた

体重入力同様に、測定データを送信するデータ送信手段 脂肪率計等の生理データ測定手段16を備えた点が異な 12を備えた万歩計、血圧計、血糖値計、尿糖値計、体 るデータ受信手段14を備えているので、別定データの 手段15は生理データ測定手段16からの情報を受信す る。このような構成にすることにより、拠定データ入力 [0059] (実施例5) 図14において、実施例2の 入力作業が、より容易にかつ正確に行える。

手段5は望ましい生活のリズムに関する情報を記憶し、 に報知するための痩タタイミング報知手段17と、入力 ダイエットを始めるのに最適な時期を予測し、穀知手段 入力手段2及び記憶手段5からの情報に基づき、痩身や メムについての助音を蝦知手段3に蝦知するための助音 情報に基づき食事を含めた生活のリズムの良否を判定し 【0060】 (実施例6) 図15~17において、記憶 と、利用者の生活を総合的に診断し、望ましい生活のリ 報知手段3に報知するための生活のリズム判定手段18

手段19とを備えた点が異なる。 で、体調が変化する。個人差はあるが、生理前には、む くい。これらはホイモンの働きによるもので、この時期 ご存置減少がないかのといる人いのいのした際食した くみ、食欲増進、便秘等の変化が起こり、体重も減りに 大限に上がる時期に入る。このように女性が健康的に効 比較的体調が安定して食事や運動による痩身の効果が最 も痩身を成功させるためにもよくない。生理が終わると り、逆に無理な食事制限をしたりするのは、体にとって 【0061】女性の体には約1ヵ月周期のバイオリズム 率よく痩せるためには、生理的バイオリズムを充分考慮 する必要がある。そこで、痩身タイミング報知手段17 の生理に関する情報や体質層域の情報に基づき、利用者 のバイオリズムを判断し、痩身効果が最大限になる時期 は入力手段2や記憶手段5からの利用者(女性の場合) 身に最適の日をやせ日として表示すれば、やせ日にふさ を推測し、図16のようにカレンダーの日にちをやせ日 として〇で囲んで表示する。利用者はこの日から頑張っ て運動や食事の管理をすれば効率よく痩身ができる。ま 図17のように生活のリズム一覧11においても痩

確かめることができるので励みになる。 のリズムのデータと比較し、良否の判定をし、判定結果 者の生活のリズムや体盤に関する情報に基づき生活パタ 20をタッチすると、生活のリズム判定手段18は利用 い生活のリズムについての情報に基づき、個人の生活実 力手段 2 からの情報と記憶手段 5 から呼び出した望まし を○、△、×、や点数等で表示する。助置手段19は入 ーンを診断し、記憶手段5から呼び出した望ましい生活 【0062】図17において利用者がアドバイスボタン 態に即した望ましい生活のリズムについて助言を行い、 助言内容を報知手段3にて報知する。例えば生理前で体 りお風呂につかってストレス解消をしてみては?」とい あせらず、バランスのよい食事をとりましょう。ゆっく 重が増加した場合には「体重が減りにくい時期ですので った生活全般について指導を行う。なお、基礎体温を入

入力した生活のリズム情報を一覧で見て、自分で良否を いて幅広い助言を行うので、容易に具体的な生活改善を とができる。さらに、個人の生活実態に基づき、生活つ 判断するだけでなく、適時、客観的な判定結果を得るこ

の仕方を報知手段3に報知する運動法報知手段21を備

えた点が実施例1とは異なる。 手段3に報知する。利用者がスタート/ストップボタン 段21は図19に示すようダイエット体操の画面を報知 ン2aのダイエット体操をタッチすると、運動注報知手 【0065】次に動作について説明する。項目選択ボタ 報知する。記憶手段5には曜日に対応した痩せたい身体 は、簡単なストレッチ体操やヨガの動作を動画と音声で 2 2のスタートをタッチすると、運動法報知手段2 1 で、順次またはランダムに報知し、飽きのこない体操を の各部位別の体操情報を複数種類子め記憶させているの んなく痩身することができる。体操法は体の動きがわか 報知することができる。毎日体操を実行し、全身まんべ りやすいように動画と音声で動きを説明し、運動しやす いようにスピーカ23から音楽を報知する。利用者はこ の動きを見たり説明を聞きながら、家庭で楽しく、手軽 に体操ができ、健康増進や痩身に役に立つ。運動を終了 してチェックしておくと生活のリズムの体操の記録は自 した時にチェック機24に運動した場合〇の機をタッチ

手段2はスポーツクラブ、エステティックサロン、フィ [0066] (実施例8) 図20~24において、入力 **わしい生活であったか、理想通りに存血は減少したかを**

正確な生理的パイオリズムの判断ができ、痩身タイミン 力する生理データ入力手段を備えた構成にすれば、より グ穀知手段17はより確実な痩身に適切な時期を穀知す

[0063] 以上のように本実施例によれば、利用者は

行うことができる。 [0064] (実施例7) 図18において、簡単な運動

> さらに予約の記録がそのまま通院記録として残り、カレ が常時表示させるので、忘れず通院させる効果がある。

【0068】以上のようにカレンダーに次回の予約日時

動的に「体操をした」として入力され、生活のリズムの

内容、治療、投票、指導内容等を入力する施術内容入力 記録入力手段25と、さらに通院時の施術、運動の実施 または医療施設への通院の日または日時を入力する通院 ットネスクラブ、病院等の美容瘦身施設、スポーツ施設 手段26を備えた点が実施例1と異なる。

にとって説明する。まず、穀知制御手段4はダイエット ら、エステティックサロンに通院する人が使う場合を例 カモードとなっており、通院配録入力手段25を介して カレンターを頼知手段3に報知させている。 通院記録入 入力することになる。仮に、24日の18:00にエス [0067] 次に動作について、図21を参照しなが せる。次に予約の時刻を入力する。通常、通院しやすい はカレンダーの次回予約表示の欄に 4月 2 4日と報知さ ッチしてから予約ボタンをタッチする、 銀知制御手段 4 テティックの予約をしたとする。 ペン9gで24日をタ 時間帯は個人によって決まってくるので、前回の予約の キャンセルした場合にはカレンダーの日付を選択してか したい場合には時と分のどちらかを選択して画面の十、 時刻を記憶しており、その時刻を報知する。 時刻を変更 らキャンセルをタッチして予約の解除を行う。 このよう ーをタッチして子約時刻を報知させ入力を行う。子約を にして入力された予約の日時情報は報知制御手段4に送 に、記憶手段5に記憶される。その日時を過ぎると、予 られ、カレンダーの日付Oで囲んで表示されるととも 約記録は通院記録としてカレンダーに表示される。

ンダーに表示され、通院履歴が一目で分かるのでエステ イックキロンやスポーツクラブのように定期的に通っ 健康管理支援装置となる。 て、効果がでるような施設の利用者にとって大変便利な 【0069】次に通院時の施術のコースを入力する動作

NI も合わせて、図23のように、日別プロック及び時系列 も、装板等の目的に応じて、マッサージやトリートメン について説明する。エステティックサロンでは痩身、説 されている。図21において、項目避択ボタン2gのエ これで、施術内容入力モードとなり施術内容入力手段2 に各コースの一覧の入力回面を報知手段3に報知する。 ステをタッチすると報知制御手段4は図22に示すよう トなど様々なサービス内容(以降コースという)が用意 6を介して入力できることになる。 繋当する日付の実施 ロースの内容の機をタッチするとOが表示され、循統内 容の入力を行う。 報知制御手段4は、記憶手段5に記憶 された過去の実施コース内容の情報に基づき、各コース 配験入力手段25及び施術内容入力手段26からの情報 4の日別ブロック表示制御手段7及び項目別時系列表示 択ポタン2aのチェックをタッチすると、報知制御手段 の合計の実施回数を一覧数に数示させる。次に、項目遊 制御手段8は、生活のリズムや体重情報に加えて、通院

6

55

[0070] このようにすることにより、いつどのコー スを実施したかの配録や管理を容易に行うことができ 2位知年限3に報知する。

間で情報の送受信を行うための送受信制27をそれぞれ に設けた構成図を示している。本実施例では、送受信部 2.7は、赤外線伝送手段を用いたが、その方法は電波で [0071] さちに囚24は、エステティックサロンの パンコン毎の情報処理装置と、健康管理支援装置1との もよく、有様、無袋に拘束されることはない。

ることができる。また、客の家庭での生活のリズムおよ いる間に従った体重も、日常生活が太る生活のままであ やトリートメントセストレスを解消し、脂肪燃焼する塩 ニズムを発見し、実行し、効果を確認することができる サロンで予約日やコース内容の入力を行い、お客のもつ の間で情報の共有化ができるとともに、お客の入力の手 ム、体盤、予約などの情報を、エステティックサロンの 情報処理装置に送信すれば、顕著管理の効率化が図られ うに作用しているかのデータベースを作成することがで きる。一般的にエステティックサロン毎の英容項身施数 に通う人は、複数に通い、何かをしてもちうことによっ て痩せようという他力本邸の姿勢の人が多い。非常に高 頃な契約をし、サロンに通ってはいるが、一向に煩せな いというクレームが後を立たないが、実際には、日常の 生活が不規則であったり、パランスの悪い食生活のため **術を受け、食事指導などの生活改善のカウンセリングを** いくことが大切である。そこで、本発明の健康管理支援 **装置は、自らの生活を管理することによって復せるメカ** [0072] このような構成にすれば、エステティック **韓原管理支援装置1に情報を送信すれば、サロンと客と** るとともに、 脳客の家庭での生活突髄を把握した上でカ ウンセリングを行ったり、サロンでのコース内容を決め びエステティックサロンでの結構が頃身の効果にどのよ になかなか優せないことが多い。また、サロンに通って るのですぐに元の体盤にもどってしまうといったケース も多い。エステティックサロンに通いながちマッサージ 受けながら、便せやすい体と太らない生活を身につけて 間が省けて便利になる。逆に客が入力した生活のリズ

ワード入力手段28から入力されたパスワードと記憶手 🕦 [0073] (英哲例9) 図25において、暗唱番号や パスワードを入力するパスワード入力手段28と、パス

ことができ、クラブでの運動と日常の生活のリズムと体 **塩を一元で管理できるので、効率的な減量や便身が行え**

ス、水泳、ジム等の運動のコースを記録し、管理をする

た、スポーツクラブ、フィッスネスクラブ利用者が使う

母合には、クラブへ通った配成とそこでのエアロビク

東にかつ特税的に収身効果をあげることができる。ま

段5に登録、記憶されたパスワードとを照合する個人認 証手段29とを備えている点が異なる。

力手段28より入力し登録する。個人認証手段29はパ 【0074】次に動作について説明する。まず、利用者 は利用者本人を顧別するための暗唱番号をパスワード入 スワード入力手段28からのパスワード情報を記憶手段 5 に記憶審積させる。利用者は健康管理支援装置1の情 報を利用する際には、パスワード入力手段28を用い

て、パスワードを入力する。個人認証手段29は登録パ スワードを記憶手段5から呼び出し、入力されたパスワ 一ドと照合し、双方が一致した場合のみ報知手段3に情 報を報知させる。健康情報や毎日の生活行為は個人のプ ライパシーが重視されるべき情報である。特に痩せたい 女性にとって自分の体重は人には知られたくないもので

[0075]以上のように本実施例によれば、健康管理 女撥装置は、パスワードを知らない人にプライパシー情 **預を収知しない個人認証手段を備えているので、利用者** は情報をだれかに見られるのではといった心配をするこ

となく使用できる。 [0076] [発明の効果] 以上の実施例から明らかなように本発明 **【0077】(1)個人の日々の生活行動やリズムに関** する情報と、個人の日々の生体情報を同時に報知するの で、利用者は自己の生理状態とライフスタイルや生活の リズムの相関を一目で配版でき、生体状態の良否の原因 を自己の生活の中に見いだし、改善方向を認識すること の健康管理支援装置によれば、下記の効果が得られる。 ができ、個人の健康管理に有効である。

【0078】(2)個人の日々の生活行動やリズムに関 する情報と、個人の日々の体重情報を同時に報知するの で、利用者は自己の生理状態とライフスタイルや生活の リズムの相関を一目で認識でき、体重の増減の原因を自 己の生活の中に見い出し、改善方向を認識することがで き、個人の優身やダイエット管理に有効である。

の各項目と体重入力手段から入力された体重情報を報知 [0079] (3) 生活のリズム入力手段から入力され た食事、運動、体養等に関する日々の生活行動について 年段に頼知し、利用者は日々の生活行動と体重を簡単に 入力するだけで、体重と生活のリズムを同時に管理する ことができ体重の増減の原因を自らのライフスタイルに 見いだすことができ、生活改善による理想体質の管理を **行うことを支援する健康管理装置を提供することができ**

り、サロンでの抵抗に加え日常生活改善を行い、より強

ので、エステティックサロンに通う客が使うことによ

[0080] (4) 配箇手段は、入力手段から入力され た食事摂取状況、生活状況、体調、健康管理に関する測 **定データを記憶蓄積し、記憶情報を適時報知手段に報知** するので、利用者の長期的健康状態、生活実態の把握に 【0081】 (5) 体重測定手段からの体重情報を伝送

手段で体血入力手段に送信するので、体重の入力作繋が 程域され、正確な体質の管理ができる。

節による病気予防に役に立つ健康管理支援装置を提供で 璽し、同時に一覧で表示させることにより、体盤管理が て、日々の生活において、どこに欠陥があるのかを認識 【0082】(6)血圧、血铸値、体脂肪率等の生理生 できるので健康管理がより便利になるとともに、生活改 本に関する測定データを入力する入力手段を設け、日々 の生活のリズムと体質、生理生体測定データを一元で管 **国要な高自圧症、糖尿病等の特定の症状のおろ人にとっ**

[0083] (7) 血圧、血糖値、体脂肪率等の生理生 が伝送手段を通じて、入力されるので、入力作業が軽減 体状態を測定する生理測定データ測定手段の測定データ

[0084] (8) 食事、運動、休養等に関する日々の 生活行動、日々の人体生理データまたは体重について入 自分の生活実態と体質や生理状態の相関を一目で認識さ 力された各項目の情報を日別にプロック表示するので、 せることができる。

[0085] (9) 食事、運動、休養等に関する日々の 力された各項目の情報をもとに同一項目の入力情報を時 生活行動、日々の人体生理データまたは体重について入 **系列で表示するので長期的傾向がつかみやすい。** 【0086】(10)生活のリズム情報に基づき生理べ るので、利用者は効率よく域量、優身を行うことができ イオリズムを判断し、痩せやすい時期を推測し、報知す

生活を総合的に診断し、良否を判定し蝦知するので、利 [0087] (11) 生活のリズム判定手段は利用者の 用者は入力した生活のリズム情報を一覧で見れるだけで なく、適時客観的な判定結果を知ることができる。

[0088] (12)助首手段が個人の生活実施に基づ いた助言情報を報知するので、利用者は容易に具体的な 生活改善を実行することができる。

[0089] (13) 國像や音声によってストレッチや ョガ等の運動法を報知するので、利用者はそれに従って 運動をすれば、家庭や外出先で簡単に楽しく運動がで き、より健康増進や減量、痩身に役立つ。 [0090] (14) エステティッククラブ、スポーツ クラブ、病院等の、美容質身施設または医療機関への通 院の日を入力する通院記録入力手段と、英容便身施設ま たは医療期間での実施内容を入力する施術内容入力手段 を備え、通院記録とその数の施挤内容を記録として容易 こ管理できる。

では顧客の生活実態を把握した上で指導を行うことがで [0091] (15) さらに、生活のリズム及び体重の **時采列変化をこれら施設への通院状態及びその際の実施** 内容を一備で表示させ、一元管理するので、それら危段 へ通う効果の有無の原因の確認できる。またこれら結改

クラブ、病院等の、美容便身施設または医療機関の情報 重等の生体情報を奠容優身施設または医療機関の情報処 理装置に吸い上げることができ、顧客の生活実態や生理 処理装置と本発明の健康管理支援装置は送受信部を介し て結合されているので、韓政管理支援装置の記憶手段に 誓権記憶されている個人の生活のリズム情報と個人の体 [0092] (16) エステティッククラブ、スポーツ 状態を一元管理をすることができる。

[0093] (17) 特定個人にしか情報報知をしない 体重等のプライパシーを重視したい内容を他人に見られ し、情報機器の扱いに不慣れな人でも簡単に使え、ユー る心配なく、安心して使える健康管理支援装置である。 国人配証手段を設けているので、蛇旗状態、生活実態、 [0094] (18) 入力手段は、ペンタッチ入力と ザーインタフェイスにすぐれた健康管理支援装置であ

[図面の簡単な説明]

【図1】本発明の一実施の形態における健康管理支援装 置の回路プロック図

[図3] 同姓麻管理支投装置の動作税明図 [囚2] 同雄原管理支援装置の外観図

[図4] 同雄麻管理支援装置の動作説明図

|図5| 同健康管理支援装置の動作説明図

|図6| 同健康管理支援装置の動作説明図

|図 1 | 同健康管理支援装置の動作説明図

[図8] 本発明の他の実施の形態における健康管理支援 技質の回路プロック図

[図9] 同健原管理支援装置の外観図

[図10] 本発明の他の実施の形態における斡旋管理支 [図11] 本発明の他の状态の形態における位成管理文 投装置の回路プロック図

[図12] 同館成管理支援装置の動作説明図 投装置の回路プロック図

[図13] 同館原管理支援装置の動作説明図

[図14] 本発明の他の実施の形態における韓康管理支 投装置の回路プロック図

[図15] 本発明の他の実施の形態における健康管理支 後装置の回路プロック図

[図16] 同健康管理支援装置の動作説明図 [図17] 同雄康管理支援装置の動作説明図

【図18】本発明の他の実施の形態における健康管理支 投装置の回路プロック図

[図20] 本発明の他の実施の形態における総成管理支 |図19| 同館康管理支援装置の動作以明図

|図21| 同陸康管理支援装置の動作説明図 登装置の回路プロック図

|図22] 同健康管理支援装置の動作説明図

[図23] 同睦康管理支援装置の動作説明図 [図24] 同睦康管理支援装置と情報処理装置の箱合構

7.

特別中9-103413

Ì,

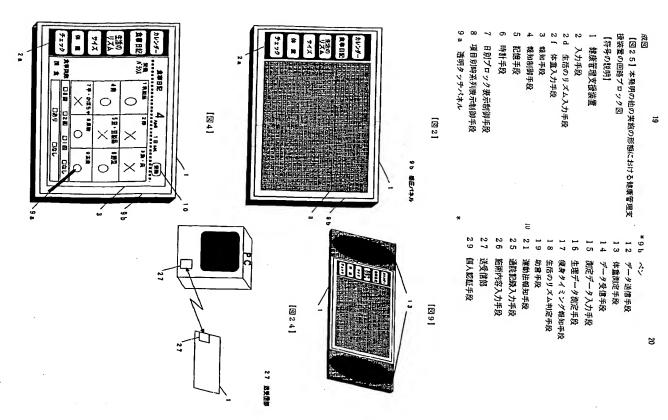
Ų,

9

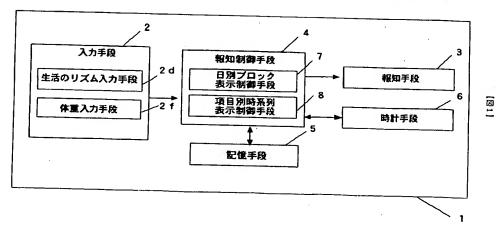
9



€

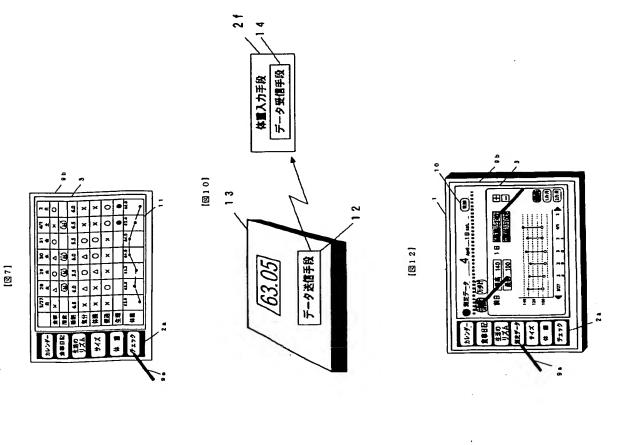


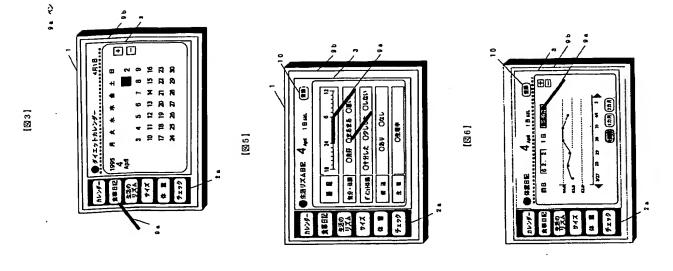
健康管理支援装置



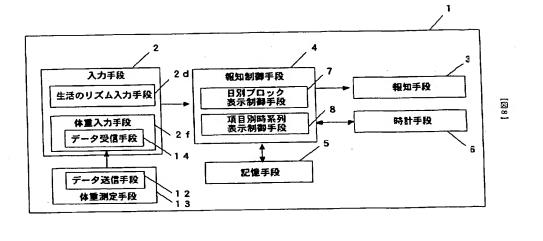
(12)

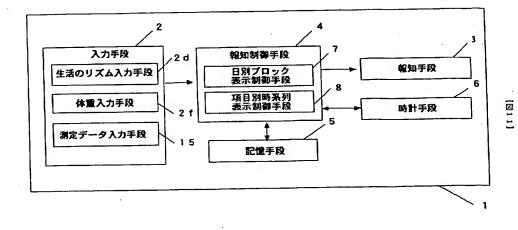
•





(15)

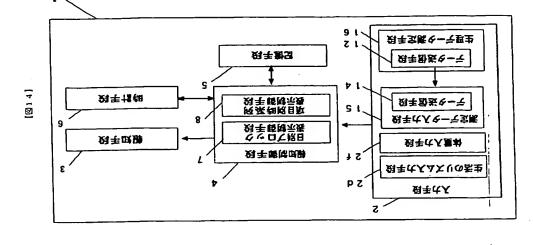




<u>6</u>



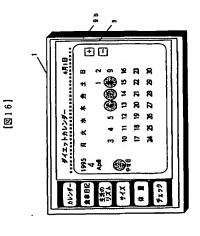
<u>8</u>

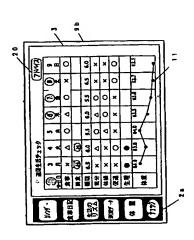


特別平9-103413

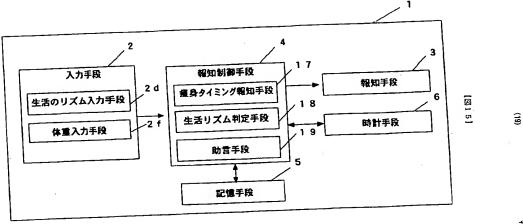
3

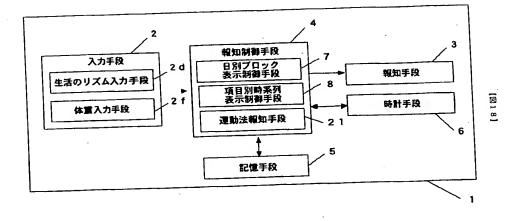
[图13]



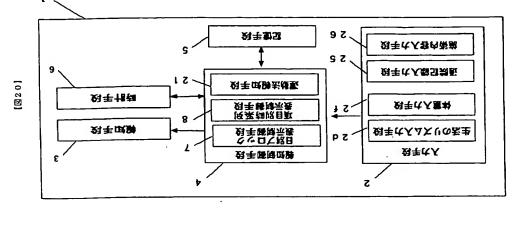


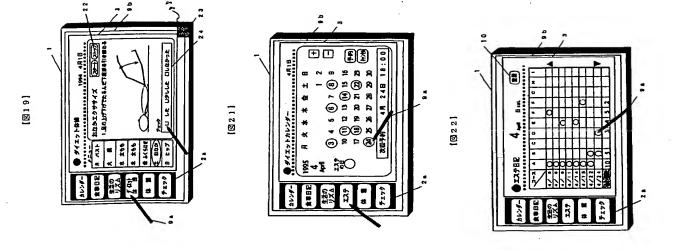
[🖾 1 7]

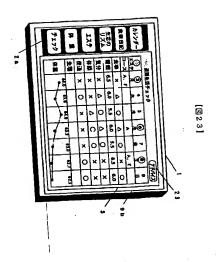


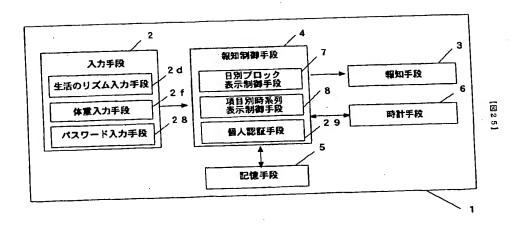


(20)









(24)

(23)